



本校の授業改善に向けた視点

各教科・領域における言語活動の充実	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動・学習過程・学習形態等を工夫する。 ○学力向上支援講師とのTTや少人数指導等、指導体制を工夫する。 ○交換授業を実施する。 ○年間指導計画等の改善を図る。 ○学習スタンダード等を活用する。 ○板書計画、ノート指導等の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行事を精選してゆとりのある授業時数を確保する。 ○朝学習の時間に、漢字練習や計算、読書等の基礎的・基本的な学習を行う。 ○夏季休業中において学力補充教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題「自らすすんで運動に親しむ子どもの育成」のもと、体育科の授業のスタンダードをつくり、教師の指導力を高める。 ○教員の能力・特性を生かした、指導力向上のための研修会を実施する。 ・特別支援教育 ・アニメーション 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準・評価計画のもと、PDCA [実践・評価・行動・修正] サイクルによる改善を図る。 ○学習過程において形成的評価を随時行い、評価を次の指導に生かす。 ○評価補助簿等を活用し、個別指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合」をはじめ各教科の学習で地域人材を積極的に活用する。 ○学校評議員による評価を生かした開かれた学校づくりを推進する。 ○基本的な生活習慣や学習習慣を育む家庭の教育力の向上を図る。 ○様々な広報活動を通じて、学校の教育情報を積極的に発信する。 ○地域主催行事に教職員が積極的に参加することによって、相互の信頼関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関中学校との定期的な連絡会を開催し、情報の共有化を図る。 ○課題改善カリキュラムを活用し、学びの連続性を重視する等、一層の小中一貫教育の充実を図る。 ○児童生徒間だけでなく、教員間の交流を促進していく。

授業改善策の検証方法

- 各教科の基礎的・基本的な内容の習得状況について、各種の学力調査の結果と授業改善策との関連を踏まえて分析し、指導方法の成果と課題を明らかにするとともに、今後の授業改善の視点を明確にしていく。
- 校内研究の活動の一環として、児童の学習意欲に関する意識調査を行い、その分析を進め、学習意欲の高揚策を講じていく。
- 保護者等による「学校の教育活動に対するアンケート」をもとに外部評価の状況を分析し、そのニーズに応じていく。